

2025 年度

立教セカンドステージ大学
科目聴講生用

講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 講義内容(シラバス)

2025年度 開講科目一覧（科目聴講生用）

2025年2月現在

■今回は春学期（夏期集中講義含む）の申込です。秋学期の申込は8月ですので、ご注意ください。

	科目コード	科目名	担当者	開講日程		シラバス
第1群 エイジング 社会の 教養科目群	OG125	聖書と私	新井 美穂	秋学期	金 4	P 1
	OG174	古典和歌を読むA	加藤 睦	秋学期	木 4	P 2
	OG143	日本思想を名著でたどる	大熊 玄	春学期	金 2	P 3
	OG140	生命の進化と生物多様性 	上田 恵介	秋学期	水 5	P 4
	OG149	自由な市民のための映画学入門	中村 秀之	秋学期	木 4	P 5
	OG160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	秋学期	火 2	P 6
	OG175	歌が照らす人と社会	佐藤 壮広	夏期集中	9/1~3	P 7
	OG177	フランスの政治・社会・文化	橋本 晃	秋学期	金 5	P 8
	OG128	グローバル社会とメディアの使命	三浦 元	秋学期	月 4	P 9
	OG254	現代化学の成果と社会生活	宮部 寛志	秋学期	月 5	P 10
	OG179	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	浜田 忠久	春学期	火 5	P 11
	OG154	アメリカ現代文化史 	生井 英考	春学期	水 5	P 12
	OG176	Media Studies	黄 盛彬	春学期	金 1	P 13
第2群 コミュニ ティ デザイン と ビジネス 科目群	OG239	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	秋学期	火 5	P 14
	OG226	修了生が語るアクティブシニアの生き方	栗田 和明	秋学期	金 4	P 15
	OG244	NPO法人の理論と事例研究	森 卓也	春学期	月 5	P 16
	OG100	セカンドステージの市民生活とNPO活動	渡辺 豊博	春学期	金 3	P 17
	OG219	ソーシャルビジネスの理論と実務	永沢 映	夏期集中	8/27~29	P 18
	OG256	社会の持続可能性と環境問題	奇二 正彦	秋学期	水 5	P 19
	OG234	持続可能な社会と地域づくり	阿部 治	夏期集中	9/4, 5, 8	P 20
	OG242	国際政治とグローバル市民社会の構想	竹中 千春	秋学期	火 4	P 21
	OG236	現代社会と民法	野澤 正充	夏期集中	8/1, 4, 5	P 22
	OG243	金融論	鉢村 健	秋学期	水 4	P 23
	OG247	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	堂園 昇平	秋学期	月 4	P 24
	OG253	シニアのための経営学	佐々木 宏	秋学期	水 4	P 25
	第3群 セカ ン ド ス テ ー ジ 設 計 科 目 群	OG300	社会老年学	安藤 孝敏	春学期	金 4
OG330		最後まで自分らしく	小谷みどり	春学期	金 5	P 27
OG307		セカンドステージの哲学	佐々木一也	春学期	火 4	P 28
OG144		生きがいの生涯発達心理学	大野 久	秋学期	火 3	P 29
OG216		アドラー心理学を学ぶ	箕口 雅博	春学期	水 4	P 30
OG319		童謡を通して社会を視る	井手口彰典	夏期集中	8/22, 25, 26	P 31
OG321		これからの社会と租税 	坂本 雅士	春学期	月 5	P 32
OG315		セカンドステージの住まいづくり	甲斐 徹郎	夏期集中	9/4, 5, 8	P 33
OG350		現在（いま）を生きるための健生学	堀 エリカ	夏期集中	8/22, 25, 26	P 34
OG137		食と健康の科学	松山 伸一	春学期	月 4	P 35
OG105		健康長寿とアンチエイジング	杉浦 克己	夏期集中	8/6~8	P 36
OG312		セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子	秋学期	火 1	P 37

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂 (アライ ミホ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	聖書を学ぶ事を中心にキリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。混迷と闇の時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い(愛)生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤いの時間です。前半は旧約聖書の中のいくつかの箇所からイスラエルの神とメシアを待望する民の関係を見つめ、イスラエル史を概観し、神と人間、私たち自身について考えます。後半は福音書を中心に、イエス・キリストの教えと生涯が投げかける問いを探り、自分や社会を見つめ、聖書のメッセージに耳を傾けたいと思います。教会暦についても学びます(内容や形式は必要に応じて微修正を行います)。				
授業計画	第1回 9/26 キリスト教に親しむ～ユダヤ教とキリスト教の関係 第2回 10/3 聖書に親しむ～開き方から学び、創世記1章2章に学ぶ 第3回 10/10 エジプト脱出～旧約聖書の「神の選び」について考える 第4回 10/17 十戒について 第5回 10/24 イエス及び福音書記者の考える十戒の理解について 第6回 10/31 イスラエルの歴史～エジプト脱出後から王国成立まで 第7回 11/7 イスラエルの歴史～王国分裂と預言者の働き 第8回 11/21 イスラエルの歴史～バビロン捕囚と帰還 第9回 11/28 イスラエルの歴史～ヘレニズム世界の支配の下で 第10回 12/5 イエス・キリストについて～誕生物語その1 第11回 12/12 イエス・キリストについて～誕生物語その2 第12回 12/19 イエス・キリストについて～たとえ話・奇跡物語 第13回 1/9 イエス・キリストについて～受難物語 第14回 1/16 イエス・キリストについて～復活物語				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	お持ちの聖書で構いません(必要なものはプリントします)。池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館、770円(税込)。ナウム・アティーク、2019、『サビールの祈り パレスチナ解放の神学』(岩城聰訳)、教文館、2,420円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG174	科目名	古典和歌を読む A	科目群	第1群
担当者	加藤 睦 (カトウ ムツミ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	藤原定家が選定、編集した『百人一首』の中から、恋の和歌を取り上げ、読解、分析を行います。古典和歌の恋歌に用いられた表現・発想の多様性に触れ、理解を深めることを目標とします。				
授業の内容	『百人一首』は、女性歌人、僧侶歌人、男性歌人の詠んだ優れた和歌を、百首収めています。この授業では、毎回、恋歌を三首から五首取り上げて、解説していきます。恋歌には、男性の立場で詠まれた歌（男歌）と、女性の立場で詠まれた歌（女歌）とがあり、その中には、男性歌人が詠んだ女歌、女性歌人が詠んだ男歌も含まれていて、なかなか複雑ですが、それぞれの特徴に留意しながら、読み進めていきましょう。				
授業計画	第1回 9/25 男歌を読解する。その1。 第2回 10/2 男歌を読解する。その2。 第3回 10/9 男歌を読解する。その3。 第4回 10/16 女歌を読解する。その1。 第5回 10/23 女歌を読解する。その2。 第6回 10/30 女歌を読解する。その3。 第7回 11/13 男歌を読解する。その4。 第8回 11/20 男歌を読解する。その5。 第9回 11/27 女歌を読解する。その4。 第10回 12/4 女歌を読解する。その5。 第11回 12/11 男歌を読解する。その6。 第12回 12/18 男歌を読解する。その7。 第13回 1/8 女歌を読解する。その6。 第14回 1/15 女歌を読解する。その7。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	島津忠夫、1999、『角川ソフィア文庫 新版 百人一首』、角川書店。				
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG143	科目名	日本思想を名著でたどる	科目群	第1群
担当者	大熊 玄 (オオクマ ゲン)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	日本の古代から中世の思想を考える上で欠かせない14の文献を扱い、その内容に直接にふれることで日本思想を学び、考えます。				
授業の内容	この授業は、日本の古代から中世において何が考えられていたのか、文献の内容を現代語訳で理解し、その思想について考える日本思想の入門講座です。 受講者は、配布される原文や現代語訳を参考に、講師による各文献の思想の抽出・説明を聞き、思想的な教養を身につけるとともに、単に情報として受け止めるだけでなく、なぜそのように考えられたのか、その文献に込められた「想い」をとらえ、自分なりの思考を紡ぐ、日本「哲学」入門も目指します。				
授業計画	第1回 4/11 ガイダンス「十七条憲法」 7c 初 第2回 4/18 『古事記』 8c 初 第3回 4/25 『万葉集』 7~8c 第4回 5/9 『古今和歌集』 10c 初 第5回 5/16 『枕草子』 10c 末 第6回 5/23 『日本霊異記』 9c 初 第7回 5/30 『方丈記』 13c 頭 第8回 6/6 『選択本願念仏集』 12c 末 第9回 6/13 『歎異抄』 13c 末 第10回 6/20 『正法眼蔵随聞記』 13c 第11回 6/27 『徒然草』 14c 第12回 7/4 『風姿花伝』 15c 第13回 7/11 『不動智神妙録』 17c 第14回 7/18 『童子問』 18c * 扱う文献は進行状況や要望により変更されることがあります。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	資料は、オンライン授業支援システム「Canvas LMS」にて配布します。				
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG140	科目名	生命の進化と生物多様性	科目群	第1群
担当者	上田 恵介（ウエダ ケイスケ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	この講義では生命の進化から始まって、今の地球上の生態系の成り立ちと仕組みを学び、そこに生きる生物の姿を通じて、自然の大切さ、ヒトも含む生き物の命のいとおいさを学ぶ。				
授業の内容	地球は生命の星である。この地球上には我々ヒトも含め、3000万種とも言われる生物が生息している。しかしその中でも名前がつけられて登録されている種は170万種にすぎない。地球上にはまだまだ私たちの知らない生物種が存在している。こんなに多様な生態系がどの様に成立してきたのかを、生命の歩んできた道筋に沿って学ぶ。この生命の星の美しさを守り、子供や孫たち、さらに子々孫々にまで伝えていくこと、それが今を生きる私たちすべての使命である。				
授業計画	第1回 9/24 はじめに（宇宙の誕生から地球の誕生まで） 第2回 10/1 地球の歴史と生命の発生 第3回 10/8 生物の進化 第4回 10/15 人類の進化 第5回 10/22 生態系とは 第6回 10/29 生物多様性とは 第7回 11/12 絶滅とは何か 第8回 11/19 動物の行動 第9回 12/3 社会性の進化 第10回 12/10 動物の利他行動 第11回 12/17 悪徳の動物行動学(1) 第12回 1/7 悪徳の動物行動学(2) 第13回 1/14 人間の本性について 第14回 1/21 総合討論				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	教科書は使用しない。適宜、読んだ方がいい本を紹介する。				
その他（HP等）	進化、自然史、人類史、動物行動、行動生態学などのキーワードで、興味のあるテーマを検索して、予習しておいてください。				

科目コード	OG149	科目名	自由な市民のための映画学入門	科目群	第1群
担当者	中村 秀之（ナカムラ ヒデユキ）				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	映画を「作品」として深く理解し味わうための基本を習得する。 映画を娯楽として消費するだけの受け身の姿勢から脱却することをめざす。				
授業の内容	この授業では、映画をディスクやネット配信で楽しむことができるようになった現状を踏まえて、映画の「作品」としての特性と、表現の基本的な規則や技法を解説します。山中貞雄監督（1909-1938）のそれぞれタイプの異なる3本の傑作を主な対象とし（必要に応じて他の作品も幅広く参照します）、作品の全体を観覧し、物語（構成、内容、語り口など）とスタイル（映像と音響の技法）の両面から検討を加えます。また、特に重要な場면을集中的に研究し、作品の理解を深めます。				
授業計画	第1回 9/25 イントロ。『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』（1935年）観覧① 第2回 10/2 『百萬兩の壺』観覧②（つづき） 第3回 10/9 『百萬兩の壺』物語の検討 第4回 10/16 『百萬兩の壺』スタイルの検討 第5回 10/23 『百萬兩の壺』主要場面の研究 第6回 10/30 『河内山宗俊』（1936年）観覧 第7回 11/13 『河内山宗俊』物語の検討 第8回 11/20 『河内山宗俊』スタイルの検討 第9回 11/27 『河内山宗俊』主要場面の研究 第10回 12/4 『人情紙風船』（1937年）観覧 第11回 12/11 『人情紙風船』物語の検討 第12回 12/18 『人情紙風船』スタイルの検討 第13回 1/8 『人情紙風船』主要場面の研究 第14回 1/15 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	プリントを配布します。				
上記教科書以外の参考図書	D. ボードウェル、K. トンプソン、2007、『フィルム・アート——映画芸術入門』（藤木秀朗監訳）、名古屋大学出版会、5,280円（税込）。 その他、授業の中で紹介し、適宜、コピーを配布します。				
その他（HP等）	教材の配布や連絡等にSPIRIT Gmail、Canvas LMS、Googleドライブを利用します。				

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	「見えたもの」をもっとよく見るようになる 「見えていないもの」も見てみようとする 「何が」から「どう」へ見方を広げる				
授業の内容	人が絵を見たとき、おそらくほとんど初めに「何が描かれているか」「これは何か」と問い、その回答とそのイメージが照合できると“一件落着”という構図。そこにもうワンステップ「どう描かれたか」を組み込むような問いを反復します。今日在る美術の成立過程、20世紀美術の概略も少々解説しつつ、リアルタイムに進行する『現代美術』と呼ばれる造形表現とその輪郭を掴むためのアシスト。				
授業計画	第1回 9/30 自分史と美術 第2回 10/7 鳥の声 第3回 10/14 名画・見ること・目の仕組み 第4回 10/21 20世紀美術略説① 第5回 10/28 ○△□ 第6回 11/11 20世紀美術略説② 第7回 11/18 水のカタチ 第8回 12/2 20世紀美術略説③ 第9回 12/9 嗜好と思考と志向 第10回 12/16 極少の美学 第11回 12/23 開放／閉鎖 第12回 1/13 作品とモノと表現とワタシ 第13回 1/20 鏡を見ながらもう一度「見る」を考える				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	ゴンブリッジ、E.H、2024、『美術の物語 ポケット版』、河出書房新書、4,389円（税込）。暮沢剛己、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書、945円（税込）。山本浩貴、2019、『現代美術史 - 欧米日本トランスナショナル』、中公新書、1,056円（税込）				
その他（HP等）					

科目コード	OG175	科目名	歌が照らす人と社会	科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)				
開講日程・時限	夏期集中9月1日、2日、3日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	昭和から令和までの歌謡曲、J-pop など流行歌を題材とし、それらが照らす時代状況や人模様を読みとき、ヤングからシニアにかけての音楽文化について考察することが、本授業の目標です。				
授業の内容	私たちは、幼少期には童謡、学童期には唱歌、クラシック、青年期には歌謡曲、フォーク、洋楽、演歌など多くの音・歌にふれます。音楽は時代状況が反映された文化のひとつであり、聴くひとの記憶としても保持されます。授業では、多くの歌を一緒に聴き、それぞれの「記憶の扉」を開け、時代と社会を考察します。キーワードは「メモリー・スケープ」と「ノスタルジー」です。				
授業計画	<p>第1日 第1回 歌と社会史:時代の記憶・歌と「メモリー・スケープ」</p> <p>第2回 戦前・戦中・戦後の歌謡、ジャズブーム、望郷・都会調歌謡</p> <p>第3回 ビートルズ来日とGSブーム、日本のロック</p> <p>第4回 フォーク、ニューミュージック、アイドル歌謡</p> <p>第5回 J-POP、テクノ、ワールドミュージック</p> <p>第2日 第6回 広告・CMソングと時代</p> <p>第7回 シティーポップ(1)グローバルな音楽シーンの受容</p> <p>第8回 シティーポップ(2)ノスタルジーと文化の再帰性</p> <p>第9回 ラップと日本語の表現文化(1)4拍子文化論と音韻</p> <p>第10回 ラップと日本語の表現文化(2)メッセージの社会的文脈</p> <p>第3日 第11回 演歌と日本のこころ(1):演歌、艶歌、ムード歌謡</p> <p>第12回 演歌と日本のこころ(2):八代亜紀、北島三郎ほか</p> <p>第13回 歌の死生学:グリーンケア、メディカル・ソング</p> <p>第14回 まとめ:「私のこの1曲」からみる人と社会と時代</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	<p>北中正和、2003、『増補にほんのうた 戦後歌謡曲史』、平凡社、1,430円(税込)。</p> <p>田家秀樹、2004、『読む J-POP 1945-2004』、朝日新聞出版、740円(税込)。</p> <p>高護、2011、『歌謡曲 時代を彩った歌たち』、岩波新書、880円(税込)。</p>				
その他(HP等)					

科目コード	OG177	科目名	フランスの政治・社会・文化	科目群	第1群
担当者	橋本 晃 (ハシモト アキラ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	英語と米英の視点・価値観に基づく世界像に覆い尽くされ、自らは経済・ビジネス一辺倒の日本だが、世界に冠たる文化や世界第二位の外交網を誇る大陸欧州の、英米とは異なる文明原理に触れ、重層的な世界・国際関係理解の一助とする。				
授業の内容	フランス文明の諸相を、古代ギリシア・ローマ以来の歴史(タテ)と同時代の国際関係(ヨコ)の両面から講義する。具体的には、言語・仏語圏、永遠の都パリ、政治、荒れる郊外、デモ、エリート教育、文化政策・文化外交、メディア、地域、対米関係、欧州連合(EU)などを扱う。日本とは対極の文明を理解するために、日本人にとってのアタリマエを相対化し、柔軟な想像力が求められる。講義では様々な逸話にも触れるが、一見周辺的な細部にこそ神が宿ることも理解されたい。				
授業計画	第1回 9/26 はじめに 世界の中のフランスとフランス語圏 第2回 10/3 パリ(上) たゆたえども沈まぬ都 第3回 10/10 パリ(下) 第4回 10/17 政治(上) 共和国、ライシテ、二大政党凋落とポピュリズム 第5回 10/24 政治(下) 第6回 10/31 荒れる郊外と移民 第7回 11/7 デモ 街頭直接行動の伝統 第8回 11/21 エリート主義教育 第9回 11/28 文化政策・文化外交 芸術支援と言語文化外交 第10回 12/5 フランスのメディア 第11回 12/12 もうひとつのフランス ミディとブルターニュ 第12回 12/19 アメリカとフランス 第13回 1/9 欧州とフランス 第14回 1/16 フランス的生 la vie française				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	プラット、ポリー、2017、『フランス人 この奇妙な人たち』(桜内篤子訳)、CCCメディアハウス、1980円(税込)。				
その他(HP等)	毎回リアクションペーパーを授業翌日〆切で書いてもらう。				

科目コード	OG128	科目名	グローバル社会とメディアの使命	科目群	第1群
担当者	三浦 元 (ミウラ ハジメ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	メディアの歴史や人権に係わる報道の役割・使命等の基本を学ぶ。同時に、技術革新による番組制作の現状を把握する。受講生が「自ら考え・判断し・意見を述べる」能力や「感想や見識を表明する」能力をより一層高める。				
授業の内容	今年では日本で放送が始まって節目の100年。「メディアリテラシー」社会と深く係わる総ての現代人にとってのリベラル・アーツ。イスラエル Hamas 紛争・ロシアウクライナ侵攻・トランプ復権・政局不安定な韓国・フランス・ドイツ等々、不透明な世界の政治・経済・軍事情勢。コンピュータとスーパーハイビジョンを軸にした新映像時代。SNS や AI 技術の活用と規制の課題。放送と通信の融合進展が加速する中で地球的規模の課題 から身近な問題を説く。				
授業計画	第1回 9/22 ガイダンス～晴れた空は青く夕焼けは紅い? Why の重要性～ 第2回 9/29 大地震・感染症～生命を守る矜持～ 第3回 10/6 気候クライシス～地球温暖化の警告～ 第4回 10/20 科学進歩の果てに～戦争兵器～ 第5回 10/27 エドワード・マロー～テレビジャーナリズムの心柱～ 第6回 11/10 ハゲワシと少女～報道か生命か～ 第7回 11/17 ハンセン病～差別とどう向き合うか～ 第8回 12/1 ドキュメンタリー番組とは～現代のベートーベンの罪～ 第9回 12/8 スーパースター大谷翔平～舞台裏で支えた男達の群像～ 第10回 12/15 オリ・パラとテレビ～感動と別次元放送権料高騰～ 第11回 12/22 コンピュータ 創造の世界～名画修復・ディズニーアニメ～ 第12回 1/19 プレゼンテーションの極意				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	NHK 放送文化研究所、2002、『放送の20世紀』、NHK 出版、2,000 円(税別)。 吉岡友治、2013、『いい文章には型がある』、PHP 新書、760 円(税別)。 望月和彦、2003、『ディベートのすすめ』、有斐閣選書、2,100 円(税別)。				
その他 (HP 等)	一連の講義終了後この講義での成果を踏まえ NHK の放送センターや 放送技術研究所等の現場見学等も検討。先方の都合で日程は未定				

科目コード	OG254	科目名	現代化学の成果と社会生活	科目群	第1群
担当者	宮部 寛志 (ミヤベ カンジ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	化学の歴史を辿ってその基礎に触れ、応用技術が社会に与えた恩恵と影響を知って現代にもつながる課題を考察する。化学の進展に携わった人々の人物像や人生という観点からも化学の歩みを捉え、身近な教養としての化学の理解を深める。				
授業の内容	人類は如何に現代化学の理解に到達したのか。どのような人物が化学を進展させ、彼らはどのような人生を送ったのか。主に化学の領域に焦点を絞って人類の自然観・物質観の変遷を俯瞰し、現在に至る化学の歴史を振り返る。また、応用技術の開発や利用の過程で顕在化した様々な問題を考察し、化学の展開に我々は如何に向き合うのかを考える契機とする。化学の基礎知識だけではなく、化学の進展に関わった人々の姿や社会的背景等をも踏まえ、化学の多角的な理解を志向する。				
授業計画	第1回 9/22 ガイダンス、古代～中世の自然観・物質観の変遷 第2回 9/29 化学革命（現代化学の黎明期）、原子論復活と分子説の展開 第3回 10/6 元素の発見（金属・気体・貴ガス）、周期律の認識 第4回 10/20 原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号 第5回 10/27 原子構造・電子配置の解明、量子力学、有機化学の草創 第6回 11/10 工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明） 第7回 11/17 大気を変える錬金術（第1回）、化学結合・分子構造 第8回 12/1 大気を変える錬金術（第2回） 第9回 12/8 代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発 第10回 12/15 抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発 第11回 12/22 精密分離技術の開発（アミノ酸分析からHPLCへの進展） 第12回 1/19 DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書はありません。パワーポイント画面を使用して講義を行います。				
上記教科書以外の参考図書	話題が多岐に亘りますので、特定の参考書はありません。				
その他（HP等）					

科目コード	OG179	科目名	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	科目群	第1群
担当者	浜田 忠久 (ハマダ タダヒサ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	日常生活や多様な課題解決に役立つ数学的リテラシーを楽しく学びながら養成し、合理的な思考力と判断力を高め、論理的かつ創造的な問題解決能力を育成します。また、数学の魅力に触れることで、学びを通じた発見と理解の喜びを共有します。				
授業の内容	数学的な考え方やアプローチを、パズルやゲームといった実践的な活動を通じて楽しく学びます。また、数学の概念が実社会でどのように活用されているのかを理解し、その応用可能性を探ります。『数の悪魔』などを題材に、数の不思議や美しさに触れながら、物事の本質を深く見つめる力を育成します。市民一人ひとりが情報やデータを批判的に読み解き、合理的な判断を行う力を培うことで、公平で公正な市民社会の実現に寄与します。				
授業計画	第1回 4/15 この時代に数学を学ぶ意味は何か? 第2回 4/22 『数の悪魔』に潜む数理の魔法 第3回 5/13 数の冒険：1と0から始まる物語 第4回 5/20 素数と無理数：数の不思議に迫る 第5回 5/27 特別講義：数学でつながる世界【ゲストスピーカー登壇予定】 第6回 6/3 三角数とフィボナッチ数：自然に隠れた数の秘密 第7回 6/10 パスカルの三角形と組合せの妙 第8回 6/17 数列・級数・フラクタル：無限の形と数の流れを楽しむ 第9回 6/24 証明と無限：数学史が語る冒険 第10回 7/1 指数と対数：多重債務から放射能まで、現代社会を読み解く数理 第11回 7/8 確率・統計のウソほんとう 第12回 7/15 なまけものの微積分				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	エンツェンスベルガー、2000、『数の悪魔——算数・数学が楽しくなる12夜』、晶文社、1,980円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG154	科目名	アメリカ現代文化史	科目群	第1群
担当者	生井 英考（イクイ エイコウ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代史のできごとを媒介に、履修生のみなさん自身の体験をふまえて時代と社会と文化についての考察を深めることを目標とします。				
授業の内容	2025年はヴェトナム戦争が終わってちょうど半世紀にあたります。おそらく履修生のみなさんの多くにとって、ヴェトナム戦争は同時代的な記憶をともなった出来事だったはずですが、このクラスではヴェトナム戦争とそれ以降のアメリカの歩みを概観し、それがどのように「いま」に結びついているかを、みなさんと一緒に議論してみたいと思います。なお、履修生のみなさんの関心に応じて、以下の進行計画は変更になる可能性があることをお断りしておきます。				
授業計画	第1回 4/16 はじめに 第2回 4/23 ヴェトナム戦争とその時代（1） 第3回 4/30 ヴェトナム戦争とその時代（2） 第4回 5/7 ヴェトナム戦争とその時代（3） 第5回 5/14 ヴェトナム戦争とその時代（4） 第6回 5/21 ヴェトナム戦争とその時代（5） 第7回 5/28 ポスト・ヴェトナムの変容（1） 第8回 6/4 ポスト・ヴェトナムの変容（2） 第9回 6/11 ポスト・ヴェトナムの変容（3） 第10回 6/18 ポスト・ヴェトナムの変容（4） 第11回 6/25 21世紀のアメリカと世界（1） 第12回 7/2 21世紀のアメリカと世界（2） 第13回 7/9 21世紀のアメリカと世界（3） 第14回 7/16 まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	生井英考、2025、『アメリカのいちばん長い戦争』、集英社新書、1,150円（予定）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

Course number	OG176	Title	Media Studies	Course group	I
Instructor	Hwang, Seongbin (黄 盛彬)				
Period	Spring, Friday, 1 th period	Class	Online	Credits	2
Remarks					
Course Objectives	In this course, students will examine the current situations, the socio-historical and political meanings, and the impacts of transnational media and popular culture, primarily focusing on Korean popular culture such as dramas, popular music, and so on, as a case of transnationally and alternatively popular culture other than American culture. Based on reviews of prior research, students will acquire theoretical and methodological knowledge about the topic and themes. In addition, students are encouraged to improve their research ability, which is required to write an academic essay on the subject.				
Course Description	Students will review prior research based on various approaches, including sociological studies on globalization, media, and cultural studies mainly focused on East Asian Media and popular cultures, with the case of the Korean entertainment cultures' popularity in Japan. This class will proceed in a workshop format, with students presenting a summary of each week's reading assignments and participating in the discussion. The topics covered will include, but not necessarily be limited to, the following in the schedule section.				
Class schedule	Lesson 1: 4/11 Introduction to Global, Transnational Popular Media and Culture Lesson 2: 4/18 Literature Review Lesson 3: 4/25 Literature Review Lesson 4: 5/9 Workshop to Think about the Theme of the Report Lesson 5: 5/16 Reading Articles on Global Media and Popular Culture Lesson 6: 5/23 Reading Articles on Korean Popular Culture Lesson 7: 5/30 Reading Articles on Korean Popular Culture Lesson 8: 6/6 Reading Articles on Korean Popular Culture Lesson 9: 6/13 Reading Articles on Korean Popular Culture Lesson 10: 6/20 Data Analysis, Presentation and Discussion Lesson 11: 6/27 Data Analysis, Presentation and Discussion Lesson 12: 7/4 Data Analysis, Presentation and Discussion Lesson 13: 7/11 Student Presentations and Discussion Lesson 14: 7/18 Student Presentations and Discussion				
Evaluation	Attendance and class participation including presentation and term paper.				
Textbooks	Hollows, Joanne, 2016, Media Studies: A Complete Introduction, Teach Yourself				
Readings	Oh, Chuyun, 2022, K-pop Dance, Routledge Jenkins, Henry, 2006, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide, NYU Press Additional readings will be introduced in class, taking into account areas of interest to students.				
Other Information	The lecturer will speak in both languages, Japanese and English, and students can participate in-class activities such as in-class discussion in both languages. This year's main focus is on the rising popularity of Korean popular culture as an important case of transnational cultural flows. 今年度は、国境を越える文化の流れの重要ケースとして、韓国のポピュラーカルチャーの例を主に取り上げます。				

科目コード	OG239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田 智生（マツダ トモオ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、RSSC の修了後にどのようなセカンドステージを歩んでいくか、国内と海外の好事例をもとに、学び×生活×多世代×ビジネスの視点を交えながらアクティブシニア論を展開する。				
授業の内容	次の授業計画に基づきアクティブシニアの要素と国内と海外の好事例を紹介する。一方通行の座学でなく、受講生同士のディスカッションを重視し、講義→討議→共有の実践的且つ双方向な授業を展開する。 毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	第1回 9/30 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む） 第2回 10/7 アクティブシニアと新たな市場 第3回 10/14 アクティブシニアと新たな大学 第4回 10/21 アクティブシニアとまちづくり 第5回 10/28 アクティブシニアの 挑戦に学ぶ 第6回 11/11 アクティブシニアのセカンドステージプラン検討 第7回 11/18 アクティブシニアのセカンドステージプラン発表 第8回 12/2 アクティブシニアのフィールドワーク 第9回 12/9 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル 第10回 12/16 アクティブシニアと地方創生 第11回 12/23 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ① 第12回 1/13 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ② 第13回 1/20 研究発表・今期の総括				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	松田智生、2017、『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500 円（税別）。 松田智生、2020、『明るい逆参勤交代が日本を変える』、事業構想大学院大学出版部、1,500 円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	-----				
その他（HP 等）	研究員紹介 三菱総合研究所 主席研究員 松田智生 https://www.mri.co.jp/knowledge/staff/0225.html				

科目コード	OG226	科目名	修了生が語るアクティブシニアの生き方	科目群	第2群
担当者	栗田 和明 (クリタ カズアキ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	RSSC 創立以来の修了生は 1,450 名を超える。彼らの修了後の RSSC 社会貢献活動サポートセンター登録研究会での活動、個人やグループでのアクティブな活動や社会とのかかわりを紹介し、これからの活動や生き方を考える。				
授業の内容	1. サポートセンター登録研究会 (以下、SC 研究会) からの発表。修了生からのキャリア・特技・趣味、RSSC での学びと人的ネットワークを活かしたコミュニティでの交流や社会貢献活動等の多様な事例を発表。 2. 発表・質疑応答やグループディスカッションを通じ、活動の始動や運営の工夫、課題等を理解する。毎回タイムリーなフィードバックも行う。 3. これからの自分の生き方や人生設計を考察する。				
授業計画	<p>第1回 9/26 「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)</p> <p>第2回 10/3 SC 研究会の事例発表 (3件)</p> <p>第3回 10/10 SC 研究会の事例発表 (3件)</p> <p>第4回 10/17 SC 研究会の事例発表 (3件)</p> <p>第5回 10/24 グループディスカッションとまとめ・発表会①</p> <p>第6回 10/31 個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</p> <p>第7回 11/7 個人・グループの社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</p> <p>第8回 11/21 NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</p> <p>第9回 11/28 NPO 法人の社会貢献活動の事例紹介 (1~2件)</p> <p>第10回 12/5 RSSC 同窓会及び同窓会事業の事例紹介 (2件)</p> <p>第11回 12/12 グループディスカッションとまとめ・発表会②</p> <p>第12回 12/19 受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表①</p> <p>第13回 1/9 受講生個人のこれからの生き方・人生設計の発表②</p> <p>第14回 1/16 授業の総括</p> <p>*各団体の発表日程は前後することもある。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG244	科目名	NPO法人の理論と事例研究	科目群	第2群
担当者	森 卓也 (モリ タクヤ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	アクティブシニアが様々な社会貢献活動を行う際の「器」としてNPO (Non Profit Organization) 法人の基礎知識を学ぶとともに、具体的なNPOを事例研究することでアクティブシニアライフの実現手段としての可能性を検討します。				
授業の内容	RSSC受講者のNPOへの関心度合は様々だと思いますが、本授業はRSSCにおけるNPO入門科目としてNPO自体への興味・関心を促すことを意図しています。実務の詳細ではなく、NPO法人制度ができた背景やその収益構造、NPO特有のマーケティング等の基礎を紹介します。またNPO実践者との対話やグループワークなど双方向型授業を通じて受講生間でのコミュニケーション促進も行います。				
授業計画	<p>第1回 4/14 イン트로ダクション</p> <p>第2回 4/21 NPO法人とは何か - NPOの過去・現在・未来</p> <p>第3回 4/28 NPO法人とは何か - NPOの過去・現在・未来</p> <p>第4回 5/12 NPO法人の収益構造</p> <p>第5回 5/19 NPO法人のマーケティング</p> <p>第6回 5/26 NPO法人の説明責任と情報公開</p> <p>第7回 6/2 中間課題（個人ワーク）発表会</p> <p>第8回 6/9 NPO実践者との対話①</p> <p>第9回 6/16 NPO実践者との対話②</p> <p>第10回 6/23 NPO実践者との対話③</p> <p>第11回 6/30 最終課題（グループワーク）の説明</p> <p>第12回 7/7 グループワーク</p> <p>第13回 7/14 グループワーク成果の発表会、講評</p> <p>* ゲスト講師の予定等により授業計画を変更する場合があります また、休講が1回入る可能性があります</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし（講義の都度レジュメ等を配布します）。				
上記教科書以外の参考図書	公益財団法人パブリックリソース財団編、2022、『NPO実践マネジメント入門【第3版】』、東信堂、3,080円（税込）				
その他（HP等）	日本政策金融公庫『ソーシャルビジネスの資金調達入門』 < https://www.jfc.go.jp/n/finance/social/pdf/socialjirei_170303a.pdf >				

科目コード	OG100	科目名	セカンドステージの市民生活とNPO活動	科目群	第2群
担当者	渡辺 豊博（ワタナベ トヨヒロ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	「過去の人生経験で蓄積してきた専門的な知識や経験を地域社会で活かしたい、新たな人的交流の場に参加したい」などさらなる発展的な市民生活を過ごすためのヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりを再発見することを目的とする。				
授業の内容	本講座では、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがいややりがいのある場づくりなどを再構築するための多種多様な社会参加のケーススタディに関わる情報提供や事例紹介を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動の方法、心構え、NPOの基礎知識、具体的な活動現場で課題解決するための実践的なノウハウ、英国や米国での先進的なNPOの活動手法、グラウンドワーク三島の現場学、地域ビジネス創業の方法などについて学ぶ。				
授業計画	<p>第1回 4/11 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認</p> <p>第2回 4/18 行政の限界・破綻を考える</p> <p>第3回 4/25 市民活動の現状と課題、可能性を考える</p> <p>第4回 5/9 国策に挑んだ南方熊楠の挑戦と戦略とは</p> <p>第5回 5/16 富士山を救え・NPOパワーの実力と可能性を考える</p> <p>第6回 5/23 NPOって何を学ぶ</p> <p>第7回 5/30 多様なNPOの実践事例を学ぶ(環境・地域づくり・交流)</p> <p>第8回 6/6 東日本大震災でのNPOの役割と課題を学ぶ</p> <p>第9回 6/13 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウと極意を学ぶ</p> <p>第10回 6/20 グラウンドワーク三島の活動事例を学ぶ(水辺再生)①</p> <p>第11回 6/27 グラウンドワーク三島の活動し背例を学ぶ(森づくり)②</p> <p>第12回 7/4 英国グラウンドワークのパートナーシップの手法を学ぶ</p> <p>第13回 7/11 中高年が中心となった市民活動やビジネスなどの活動紹介</p> <p>第14回 7/18 全体的な質疑応答と振り返り、講義のまとめ</p> <p>*希望者を対象としたグラウンドワーク三島での体験学習有り</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	渡辺豊博、2016、『先生、NPOって儲かりますか?』、春風社、1,389円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	渡辺豊博、2005、『清流の街がよみがえった』、中央法規株式会社、2,000円(税別)。 渡辺豊博、2024、『富士山を壊すのは誰?』、泉町書房、1,800円(税別)。				
その他(HP等)	特定非営利活動法人 グラウンドワーク三島・ホームページ				

科目コード	OG219	科目名	ソーシャルビジネスの理論と実務	科目群	第2群
担当者	永沢 映 (ナガサワ エイ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月27日、28日、29日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	地域や社会の課題解決を事業として実施をするソーシャルビジネスやコミュニティビジネスへの関心が高まっています。事例を学び、ノウハウを習得して実践に向けた具体的なプラン作成を進めていく。				
授業の内容	<p>以下の内容について学び、検討をし、形を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ソーシャルビジネスの考え方や必要性について学ぶ ② ソーシャルビジネスの事例研究 ③ ソーシャルビジネスのノウハウ ④ 課題の抽出から解決策の検討・意見交換 ⑤ 事業計画書の作成と実践に向けた検討 				
授業計画	<p>第1日 第1回 ソーシャルビジネスを学ぶ 第2回 ノウハウの習得1 第3回 ソーシャルビジネスの事例研究1 第4回 ソーシャルビジネスの事例研究2 第5回 ソーシャルビジネスの事例研究3</p> <p>第2日 第6回 ノウハウの習得2 第7回 ソーシャルビジネスの事例研究4 第8回 地域課題・ニーズを図るための演習1 第9回 地域課題・ニーズを図るための演習2 第10回 ソーシャルビジネス事業計画書作成</p> <p>第3日 第11回 ソーシャルビジネスの事例研究5 第12回 ソーシャルビジネスの事例研究6 第13回 事業計画書作成に向けたポイントの整理 第14回 実践に向けた事業計画の作成と意見交換 * 質疑応答、DVDによる事例の視聴を毎回実施</p>				
成績評価方法	平常点による評価 (出席確認)				
講義中に直接使用する教科書	資料は事前にデータで配布および投影(原則として紙の配布は致しません)				
上記教科書以外の参考図書	特になし。必要に応じて資料としてデータにて共有します。				
その他 (HP 等)	<p>ソーシャルビジネス (経産省)</p> <p>http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/sbcb/</p>				

科目コード	OG256	科目名	社会の持続可能性と環境問題	科目群	第2群
担当者	奇二 正彦 (キジ マサヒコ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代社会において深刻化している環境問題に対し、歴史、倫理、科学、経済など多角的な視点で問題を見てゆく。その上で、社会の持続可能性のために私たちができることを考え、実践することを目標とする。				
授業の内容	この授業では、環境問題の全体像を把握し、社会の持続可能性について探求します。初めに、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇などの現代の環境問題に焦点を当て、これらの問題がどのように人間活動に根ざしているかを探ります。次に、環境思想の歴史と主要な思想家の理論を概観します。また、国際的な環境政策、法律、およびガバナンスに関する知識を深め、持続可能なライフスタイルと消費者行動についても議論します。最終的には、受講生が環境問題に対する意識を高め、未来に向けた行動をとるための基盤を築きます。				
授業計画	第1回 9/24 序論とコースの紹介 第2回 10/1 環境問題の現状 第3回 10/8 環境問題の現状 第4回 10/15 自然とは 第5回 10/22 生態系、生物多様性とは 第6回 10/29 生態系サービスとは 第7回 11/12 様々な環境思想 第8回 11/19 様々な環境思想 第9回 12/3 環境問題に対する国際的な取り組み 第10回 12/10 環境問題に対する国際的な取り組み 第11回 12/17 環境問題に対する国際的な取り組み 第12回 1/7 持続可能なライフスタイルと4つの活動 第13回 1/14 環境教育とコミュニケーション 第14回 1/21 サスティナビリティへの未来の展望				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特になし				
上記教科書以外の参考図書	特になし				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG234	科目名	持続可能な社会と地域づくり	科目群	第2群
担当者	阿部 治 (アベ オサム)				
開講日程・時限	夏期集中 9月4日、5日、8日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	人類にとって最大の課題である「持続可能な社会」や「持続可能な開発」、国連持続可能な開発目標 (SDGs) への理解を深めるとともに全国各地の事例を通して持続可能な社会づくりの手法を学び、生活に生かす。				
授業の内容	今日では一般的となった「持続可能な社会」「持続可能な開発 (SD)」という人類共通の目標に至るまでの流れを振り返り、これらの基本事項の整理を行い、さらに「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」を俯瞰し、SDGs を達成するための人づくりである「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の視点から、多様な主体の協働による持続可能な地域づくりの具体的な事例 (ゲスト講師含) を取り上げ、検討し、持続可能な社会や地域づくりについて理解を深める。				
授業計画	<p>第1日 第1回 現代社会 (地域) は持続不可能</p> <p>第2回 「もう一つの道」としての「持続可能な開発」</p> <p>第3回 「持続可能な社会」「持続可能な開発」とは</p> <p>第4回 SDGs とは何か</p> <p>第5回 ESD とは何か</p> <p>第2日 第6回 ESD による地域創生</p> <p>第7回 事例1</p> <p>第8回 フィールドワーク (近郊の環境学習施設)</p> <p>第9回 同</p> <p>第10回 同</p> <p>第3日 第11回 事例2</p> <p>第12回 事例3</p> <p>第13回 事例4</p> <p>第14回 総括:</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	適時プリントを配布する				
上記教科書以外の参考図書	阿部編、2017、『ESDの地域創生力』、合同出版、2,000 (税別)。阿部・増田編、2020、『ESDの地域創生力と自然学校』、ナカニシヤ、2,000円 (税別)。阿部・他編、『知る・わかる・伝える SDGs I』『同II』『同III』『同IV』、学文社、各2,000円 (税別)。				
その他 (HP等)					

科目コード	OG242	科目名	国際政治とグローバル市民社会の構想	科目群	第2群
担当者	竹中 千春 (タケナカ チハル)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	グローバル化の急速な進展は、移民やマイノリティを排斥する反動的ナショナリズムを呼び起こし、国際社会を動揺させています。貧富の格差を縮小し、武力紛争を止め、持続可能な社会をつくれるのか。一緒に考えていきましょう。				
授業の内容	世界金融危機、難民と移民の急増、気候変動、パンデミック、経済危機とエネルギー危機、ウクライナ戦争、中東紛争の再燃、核戦争の危険など衝撃的な事件が続きます。各国の選挙が続いた2024年ロシアやインドなどでは権威主義的な指導者が再選され、アメリカでは移民排斥と「偉大なアメリカの復興 (MAGA)」を掲げるトランプ候補が大勝しました。人間社会が複合危機に見舞われる今日、誰が平和を守るのか、誰がその知恵と力を持つか。市民の役割とその力を考察します。				
授業計画	<p>第1回 9/30 グローバルな複合危機の時代</p> <p>第2回 10/7 気候変動・温暖化・水資源と国際社会</p> <p>第3回 10/14 感染症のパンデミックと国際社会</p> <p>第4回 10/21 国家は豊かさを守るか①</p> <p>第5回 10/28 国家は豊かさを守るか②</p> <p>第6回 11/11 国家は平和を守るか①</p> <p>第7回 11/18 国家は平和を守るか②</p> <p>第8回 12/2 移民・難民・移動する人々の時代</p> <p>第9回 12/9 人権侵害・マイノリティ・女性</p> <p>第10回 12/16 盗賊のインド史：女盗賊プーラン・デーヴィー</p> <p>第11回 12/23 暴力の連鎖をもたらすのは誰か、解くのは誰か</p> <p>第12回 1/13 ガンディー 平和を紡ぐ人</p> <p>第13回 1/20 総合討論：市民としてどう生きるか</p> <p>* 世界情勢の変化に応じた授業計画の変更は開講時に示します。</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	藤原帰一、2020、『不安定化する世界』、朝日新聞出版、979円(税込)。 竹中千春、2004、『世界はなぜ仲良くできないの?』、CCCメディアハウス、電子書籍、861円(税別)。竹中千春、2018、『ガンディー 平和を紡ぐ人』、岩波新書、820円(税別)。				
上記教科書以外の参考図書	竹中千春、2010、『盗賊のインド史 帝国・国家・無法者』、有志舎、2,808円(税込)。 藤原帰一、2022、『「正しい戦争」は本当にあるのか』、講談社+α新書、900円(税別)。 藤原帰一他編、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか』、日本評論社、2,970円(税込)。				
その他 (HP等)	他の参考文献や資料、ビデオ鑑賞などについては各回の授業で紹介します。				

科目コード	OG236	科目名	現代社会と民法	科目群	第2群
担当者	野澤 正充 (ノザワ マサミチ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月1日、4日、5日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	この授業では、これまで法律と関わってこなかった受講生が、論理的に物事を考える力を養うとともに、日常生活に身近な民法をとおして、日本の現代社会や世界を見る力を養うことを目的とする。				
授業の内容	授業は、①民法の基礎的な知識を講義する部分と、②具体的な事例を基に、受講生がグループで検討する部分とから成る。そして、他のグループの発表を聴くことにより、いろいろな考え方や見方があることに気づくと共に、各自が法的な物の考え方を身に付け、意見を発表できるようにする。かつて法学部で学んだ方はもちろん、これまでの人生において全く法律と縁がなかった受講生でも、十分に理解できる内容とするつもりである（理解のため、映画や写真も用いる）。				
授業計画	第1日 第1回 民法典の成立 第2回 法学への導入—Introduction 第3回 契約自由の原則 第4回 約款の意義と解釈 第5回 事情変更の原則 第2日 第6回 契約交渉の不当破棄 第7回 説明義務違反① 第8回 説明義務違反② 第9回 AIと法①—Chat GPT 第10回 AIと法②—自動運転 第3日 第11回 契約の成立 第12回 契約の効力 第13回 危険負担とその移転 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	野澤正充、2024、『契約法—セカンドステージ債権法 I [第4版]』、日本評論社、3,000円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	なし（六法があればなおよいが、レジュメでも対応可能）				
その他（HP等）					

科目コード	OG243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健 (ハチムラ タケン)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代社会は「金融(負債)の膨張」を背景として、大きな歪みをもたらしています。授業では資本主義の根幹をなす「通貨と金融」を理論と実態の両面から把握して構造問題を探り、将来の課題を「自らの視点で捉え直す力の涵養」を目指します。				
授業の内容	授業では「貨幣と信用」を多面的に追いかけて、論理的な思考訓練を繰り返します。世界経済は「グローバル化と技術革新」の下で高度化し効率的になりましたが、その反面「多様化と格差拡大」によって、嫉妬深く不安定な社会になりました。また軍事紛争とパンデミックを経て、世界のマネーが少数勢力へ集中しています。こうした社会現象は「負債の膨張」と「巨額な資金決済」なしに実現しません。金融の視点から「現代社会が抱える課題の本質と将来像」について考えましょう。				
授業計画	第1回 9/24 オリエンテーション講義「金融膨張と国際新秩序」 第2回 10/1 貨幣論(1)「銀行券と貨幣」—通貨の製造企画と発行管理 第3回 10/8 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業 第4回 10/15 貨幣論(3)「キャッシュレス」—デジタル通貨と決済システム 第5回 10/22 金融論(1)「民間金融」—民間金融機関の変遷と将来像 第6回 10/29 金融論(2)「中央銀行」—機能と業務内容、国際比較 第7回 11/12 金融論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策(含むMMT) 第8回 11/19 金融構造論(1)「日本経済」—経済指標で見た失われた30年 第9回 12/3 金融構造論(2)「地方経済」—消滅可能性都市が減った 第10回 12/10 金融構造論(3)「世界経済」—景気循環と保護主義 第11回 12/17 国際金融論(1)「国際協調」—国際機関とグローバリズム 第12回 1/7 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援とデジタル通貨 第13回 1/14 国際金融論(3)「マネーロンダリング」—地下金融とCBDC 第14回 1/21 総括講義				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用のパワーポイントを毎回提供します(教科書の指定はありません)。				
上記教科書以外の参考図書	理解を深めたい学生用に、推薦できる専門書を適宜紹介します(購入不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG247	科目名	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	科目群	第2群
担当者	堂園 昇平（ドウゾノ ショウヘイ）				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	本講座は、公益財団法人トラスト未来フォーラムによる寄付講座となります。				
授業の目標	人生100年時代シニアが豊かなセカンドステージを送るうえでは、賢明な財産管理と適切な資産運用が重要であることから、現代的機能が注目されている信託について理論と実務・社会貢献への活用を学び、賢い人生設計に資する。				
授業の内容	中世英国において発生し時代と共に発展してきた信託の歴史・制度と公共性・社会貢献・多様な機能を理解し、公益信託や家族の財産管理に役立つ遺言代用信託・民事信託等を考察する。投資信託における信託機能と資産運用にも言及する。相続対策と信託の活用にも実務的に取り組む。受講生の目線で期待される新しい信託を考える。外部講師の高度な専門性に基づく理論と実務、平易かつ興味深い講義を展開し、グループ討議を取り入れる等、双方向コミュニケーションを図る。				
授業計画	<p>第1回 9/22 講座の目的、シニアに役立つ信託商品の理解</p> <p>第2回 9/29 信託商品の概要</p> <p>第3回 10/6 信託の過去・現在・未来</p> <p>第4回 10/20 SDGs・ESG・CSR～サステナブル金融をめぐる内外動向</p> <p>第5回 10/27 資産運用と企業への取り組み</p> <p>第6回 11/10 シニアの賢い資産運用</p> <p>第7回 11/17 金融老年学について</p> <p>第8回 12/1 信託の仕組みと超高齢社会におけるその活用法</p> <p>第9回 12/8 相続対策と信託の活用～信託の利用で何が出来るか？</p> <p>第10回 12/15 今から考える相続対策</p> <p>第11回 12/22 円滑な相続に向けて（遺言と遺言信託）</p> <p>第12回 1/19 総括（信託を作ってみよう）と感想文作成</p> <p>* コーディネーターや外部講師がそれぞれの専門分野を分担して講義を進めます。講師の都合による変更もあり得ます。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）	トラスト未来フォーラムについては、以下のホームページをご覧ください。 https://trust-mf.or.jp/index.html				

科目コード	OG253	科目名	シニアのための経営学	科目群	第2群
担当者	佐々木 宏 (ササキ ヒロシ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	経営学は実践の学問といわれます。基礎講義とともに、ほぼ毎回、講義に関連する受講者同士のディスカッションを行い、身近な問題やテーマを題材に組織や人の問題について考えていきます。				
授業の内容	経営学には経営戦略など「組織」を研究する側面と、働く人やチームなど「人」を研究する側面の2つがあります。そこには、古くからあるテーマと、サステナビリティやAIなど新しいトピックが混在しています。これまで経営学を系統的に学んだことがないことを前提に、よく知られた経営学の理論、経営学者や経営者の考え方などを紹介していきます。途中、Python 実習にもチャレンジします。最終成果物として、受講者全員のエッセイ集をまとめ、プレゼンしていただきます。				
授業計画	<p>第1回 9/24 社会科学と経営学(イントロダクション)</p> <p>第2回 10/1 企業と戦略Ⅰ</p> <p>第3回 10/8 企業と戦略Ⅱ</p> <p>第4回 10/15 企業と戦略Ⅲ</p> <p>第5回 10/22 組織と人Ⅰ</p> <p>第6回 10/29 組織と人Ⅱ</p> <p>第7回 11/12 社会とイノベーションⅠ</p> <p>第8回 11/19 社会とイノベーションⅡ (Python 実習)</p> <p>第9回 12/3 経営学の原著／経営者の考えに触れようⅠ</p> <p>第10回 12/10 経営学の原著／経営者の考えに触れようⅡ</p> <p>第11回 12/17 経営学の原著／経営者の考えに触れようⅢ</p> <p>第12回 1/7 経営学の原著／経営者の考えに触れようⅣ</p> <p>第13回 1/14 最終エッセイⅠ</p> <p>第14回 1/21 最終エッセイⅡ</p> <p>* 受講者の状況をみながら、フレキシブルに変更していく可能性あり。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	固定のテキストは使いません。毎回、教材を配布いたします。				
上記教科書以外の参考図書	P. F. ドラッカー、2005、『ドラッカー365の金言』、ダイヤモンド社、2,800円(税別)。 松下幸之助、2011、『成功の金言365』、PHP研究所、1,800円(税別)。				
その他(HP等)	講義の性格上、毎回のディスカッションはどうしてもご自身のご経験などが題材になることが多いので、受講に当たっては、その点ご理解ください。				

科目コード	OG300	科目名	社会老年学	科目群	第3群
担当者	安藤 孝敏 (アンドウ タカトシ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	高齢社会とはいかなる社会であるのかを理解し、これからの自分自身の生き方と関連させて、近未来の高齢社会のあり方を考察できるよう、社会老年学の基礎的な知識と考え方を修得することがこの授業の目標である。				
授業の内容	この授業では、人口の高齢化、高齢期の健康、定年退職、高齢期の社会関係などのテーマを取り上げ、高齢社会の特徴について検討する。そして、社会と個人の高齢化を踏まえて、これからの高齢期のライフスタイルについて考えていく。授業は講義資料、映像資料、関連 Web サイトなどを用いて講義を行い、受講者には講義内容や資料に関するコメント・感想などのリアクションペーパーの提出を求める。オンライン授業の特性を活かして、意見交換する反転授業も行う。				
授業計画	第1回 4/11 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 4/18 高齢社会を科学する：社会老年学とは？ 第3回 4/25 高齢者観：高齢期をみる目 第4回 5/9 人口の高齢化：高齢化社会の実態 第5回 5/16 人口高齢化のメカニズム：少子化と長寿化 第6回 5/23 高齢社会の現状1：映像視聴 第7回 5/30 高齢期の健康：生活機能 第8回 6/6 高齢社会の現状2：映像視聴 第9回 6/13 定年退職、就業意欲と職業観 第10回 6/20 高齢社会の現状3：映像視聴 第11回 6/27 高齢期の社会関係 第12回 7/4 多様化する高齢期のライフスタイル 第13回 7/11 「高齢社会対策大綱」にみる高齢社会のデザイン 第14回 7/18 まとめ * ゲストスピーカー招聘により、計画変更の可能性あり				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特に指定しません。 授業毎に講義資料（パワーポイント）などを配信します。				
上記教科書以外の参考図書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。				
その他（HP等）	総務省統計局 https://www.stat.go.jp/ 内閣府共生社会政策・高齢社会対策 https://www8.cao.go.jp/kourei/index.html				

科目コード	OG330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	生ある者(物)の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。				
授業計画	第1回 4/11 多死社会・死を取り巻く社会の状況 第2回 4/18 死とは何か(死の基準) 第3回 4/25 死にまつわるタブーや因習の成立 第4回 5/9 現代人の死生観 第5回 5/16 自身の死生観を考える 第6回 5/23 安楽死と尊厳死 第7回 5/30 最後まで生きるとは 第8回 6/6 現代社会におけるお墓の問題 第9回 6/13 お墓のゆくえ 第10回 6/20 お葬式 宗教的、歴史的考察 第11回 6/27 お葬式 経済的、社会的考察 第12回 7/4 死者を弔うとは 第13回 7/11 弔われない死者と無縁社会 第14回 7/18 死後をどう託すか				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他(HP等)					

科目コード	OG307	科目名	セカンドステージの哲学	科目群	第3群
担当者	佐々木 一也 (ササキ カズヤ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	人生を生きてくると自分の半生の評価と未来を含めた全体像が気になるものです。哲学に触れて、個人の人生と個人の時間空間を超えた大きな普遍的価値との繋がりを自覚し、残された未来を自分なりに有意義に構築する手がかりを得ます。				
授業の内容	近代日本の社会制度の基盤である西洋哲学と日本人の生き方の基盤であり続けている儒教・仏教の発想との違いを知ります。哲学は知識でなく思考法です。哲学を使えるようになるのが理想です。そのために解釈学という世界認識の方法と螺旋型思考法を学びます。その上で、セカンドステージの私たちが現在あるいは未来において対処しなければならない事象について、哲学的に考える練習を行います。哲学は対話を重視してきました。この授業でも対話の時間を持ちます。				
授業計画	第1回 4/15 セカンドステージライフと哲学 第2回 4/22 西洋哲学の特徴 第3回 5/13 哲学が馴染みにくい日本の思想風土 第4回 5/20 世間のシニアに馴染みやすい哲学・解釈学(1)曖昧な生 第5回 5/27 世間のシニアに馴染みやすい哲学・解釈学(2)螺旋型思考法 第6回 6/3 個人の自由と世間人の「非自立的自律性」 第7回 6/10 個人の他者理解と世間人の相互関係性 第8回 6/17 社会と世間での民主主義運営の違い 第9回 6/24 科学技術、特にAIとの共存のために 第10回 7/1 争い(権力闘争、戦争)は人間性の必然か 第11回 7/8 命とはどのようなものか・永遠の未来 第12回 7/15 まとめ・それぞれのセカンドステージの哲学に向けて *年度末に課外活動として「哲学懇話会」を開催します。				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	各回の授業で資料としてプリントを配布します。				
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	OG144	科目名	生きがいの生涯発達心理学	科目群	第3群
担当者	大野 久 (オオノ ヒサシ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	E. H. エリクソンの漸成発達理論、生涯発達論を基礎に、自らの育ち、人生、生き方、生きる意味、生きがい、死生観について考える。そこから、これからの生き方と家族、友人らとの人間関係のあり方を問い直す。				
授業の内容	S. フロイトは、人生で大切なこととして「愛することと働くこと（職業という閉じた意味ではなく、人生でなすべきことという意味で）」をあげた。この講義では、心理学における生涯発達論を通して、この2つの問題についての様々な考え方を紹介する。受講生が自らの人生の振り返り、これからの生き方について再考する機会としたい。取り上げるテーマは、アイデンティティ、愛するということ、次世代を育てること、生きる意味、生きがい、死生観（魂理論）などである。				
授業計画	第1回 9/30 生涯発達から生きがいを考える 第2回 10/7 アイデンティティの感覚 第3回 10/14 アイデンティティの機能と重要性 第4回 10/21 姓名、職業、発達のアイデンティティ 第5回 10/28 否定的、歴史的アイデンティティ 第6回 11/11 信頼感と愛情、恋と愛の違い 第7回 11/18 愛の無条件性と相互性 第8回 12/2 愛の発達、アイデンティティのための恋愛と中年期以降の愛 第9回 12/9 世代継承性と統合性 第10回 12/16 死後、人はどうなるかの思想 第11回 12/23 臨死体験、前世の記憶、死後の世界の記憶 第12回 1/13 魂の不滅に関する思想とその科学性 第13回 1/20 まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	大野久、2010、『エピソードでつかむ青年心理学』、ミネルヴァ書房、2,860円（税込）。大野久・三好昭子・茂垣まどか・赤木真弓、2023、『アイデンティティ研究のための伝記分析—生涯発達の質的心理学』、福村出版、8,800円（税込）。				
その他（HP等）					

科目コード	OG216	科目名	アドラー心理学を学ぶ	科目群	第3群
担当者	箕口 雅博 (ミグチ マサヒロ)				
開講日程・時限	春学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	本講義では、アドラー心理学の中核概念である“勇気づけ”と“共同体感覚の育成”をキーワードとして、共同体の一員として貢献しながら、どうしたらシンプルで幸福に生きていけるかをともに学ぶことを目的とする。				
授業の内容	アドラー心理学は、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが創始した、人間理解と援助のための心理学である。その理論は、個人の主体性を重んじていること、原因にこだわらず未来について考えて行く解決志向であること、人と人とのつながりを大切にしていることなどの特徴から、対人支援場面や日常生活における実践に幅広く役立つものと考えられる。本講義では、アドラー心理学の理論と実践を体系的かつ体験的に追究していきたい。				
授業計画	第1回 4/16 オリエンテーション 第2回 4/23 アルフレッド・アドラーの生涯と思想～誕生の背景 第3回 4/30 アドラー心理学の現在～多様な実践心理学への影響 第4回 5/7 アドラー心理学理解のための基本前提(1)～目的論・全体論 第5回 5/14 アドラー心理学理解のための基本前提(2)～劣等感・優越感 第6回 5/21 アドラー心理学理解のための基本前提(3)～認知論・主体論 第7回 5/28 アドラー心理学理解のための基本前提(4)～ライフスタイル・ライフタスク 第8回 6/4 アドラー心理学理解のための基本前提(5)～対人関係論 第9回 6/11 アドラー心理学理解のための基本前提(6)～共同体感覚 第10回 6/18 アドラー心理学の実践・ワーク(1)～勇気づけの原理 第11回 6/25 アドラー心理学の実践・ワーク(2)～他者を勇気づける 第12回 7/2 アドラー心理学の実践・ワーク(3)～自分を勇気づける 第13回 7/9 アドラー心理学を実践に活かす：グリーンケア(ゲスト講師) 第14回 7/16 全体のまとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	レジュメ資料を用いる。				
上記教科書以外の参考図書	岸見一郎、1999、『アドラー心理学入門』、KKベストセラーズ、1,000円(税別)。 岩井俊憲、2011、『勇気づけの心理学』、金子書房、1,800円(税別)。八巻秀、2018、『定年後の人生を変えるアドラー心理学』、講談社、1,400円(税別)。その他は、授業のなかで随時紹介する。				
その他(HP等)	パワーポイント・ビデオ教材などを用い、グループによる討議・発表、ロールプレイ、ゲストによる講義を取り入れた多面的な授業を展開していく予定である。				

科目コード	OG319	科目名	童謡を通して社会を視る	科目群	第3群
担当者	井手口 彰典（イデグチ アキノリ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月22日、25日、26日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	社会における常識は決して不変・普遍ではなく、時代や地域が変われば大きく様変わりします。この授業では、音楽（特に童謡）に注目することを通じて、そうした社会常識の変化を確認し、現代を「相対化」することを試みます。				
授業の内容	今日、「日本人の心のふるさと」などと形容されることの多い童謡・唱歌。しかしそのイメージは、常に今と同じだったわけではありません。人気を博した児童歌手や「歌のおばさん」、アニメソングに CM ソング、そして新しい音響メディア。めまぐるしく変わる社会のなかで、童謡はどう歌われ消費されてきたのか。その推移を眺めれば、今を生きる私たちの「常識」の脆さが見えてきます。懐かしい童謡・唱歌の裏側に垣間見える「社会」を、一緒に読み解いていきましょう。				
授業計画	<p>第1日 第1回 社会を「相対化」する目</p> <p>第2回 唱歌と童謡の誕生</p> <p>第3回 大正時代の童謡の特性</p> <p>第4回 レコードとラジオの普及</p> <p>第5回 児童童謡歌手の隆盛</p> <p>第2日 第6回 「歌のおばさん」の登場</p> <p>第7回 転身・潜在化する児童童謡歌手</p> <p>第8回 転換点としての1968年</p> <p>第9回 錯綜する童謡イメージ</p> <p>第10回 「ちびっこのどじまん」は何を変えたのか</p> <p>第3日 第11回 具象化される「ふるさと」</p> <p>第12回 ふるさとのインデックス</p> <p>第13回 童謡はなぜ「怖い」のか</p> <p>第14回 社会の中の童謡</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	井手口彰典、2018、『童謡の百年：なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書房、1,760円（税込）。				
その他（HP等）	参考図書の購入は任意ですが、手元があればより理解が深まるはずです。				

科目コード	OG321	科目名	これからの社会と租税	科目群	第3群
担当者	坂本 雅士 (サカモト マサシ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	本講義では、わが国の財政状況及び税務行政の沿革を概観したうえで、租税に関する法的なしくみを理解することを目的とします。				
授業の内容	租税とは何か、その基本原則・解釈原理とは何か、課税処分に対して異議がある場合にはどうするのか、租税回避とはどのような行為を指し、どのような対抗措置がとられているかについて概説します。身のまわりの租税から、国際課税の潮流まで幅広く、タイムリーな話題を税務事例とともに取り上げます。講義はテキスト、レジュメに沿って行います。また、国税庁等から配信されている動画を視聴することにより理解を深めます。				
授業計画	第1回 4/14 ガイダンス、本講座のとるアプローチ、本講座の目的 第2回 4/21 現代税制の基礎知識 第3回 4/28 租税の意義、性格、目的、根拠、租税法と信義則 第4回 5/12 租税法の基本原則(1) 第5回 5/19 租税法の基本原則(2) 第6回 5/26 申告、納付、還付、申告内容の是正 第7回 6/2 租税回避行為(1) - 脱税や節税との違い、歴史 - 第8回 6/9 租税回避行為(2) - 納税者になろうとしない者への対応 - 第9回 6/16 ゲストスピーカーによる講演会 第10回 6/23 国際課税の新たな潮流 第11回 6/30 税務事例にチャレンジ 第12回 7/7 2025年度の最新トピックを探る 第13回 7/14 総まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	なし				
その他(HP等)	坂本ゼミナール https://x.com/sakmotoseminar				

科目コード	OG315	科目名	セカンドステージの住まいづくり			科目群	第3群
担当者	甲斐 徹郎 (カイ テツロウ)						
開講日程・時限	夏期集中 9月4日、5日、8日 (10:00~17:00)		授業方式	対面	単位数	2単位	
備考							
授業の目標	自身の「しあわせ」と「健康」とを目的として、自分の住まいを点検し、自己評価できる力を身につけ、その改善計画を立案することを目標とする。						
授業の内容	我々にとっての「しあわせ」と「健康」には暮らしの拠点である住まいのカタチが大きく影響している。たとえば、クーラーに頼らない「涼しさ」や、深部体温を下げない「暖かさ」といった住まいの熱環境は快適性を高め、同時に健康寿命に大きく作用する。また、身近なコミュニティとの関係があり孤立しないことは、「しあわせ」の本質であり、「健康」への影響も指摘されている。この授業では、人生の拠点としての住まいのあり方を考え、その改善の仕方を学ぶ。						
授業計画	<p>第1日 第1回 住まいと健康</p> <p>第2回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(1)</p> <p>第3回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(2)</p> <p>第4回 健康に大きく影響する冬暖かい住まいの作り方</p> <p>第5回 孤立しない住まいの作り方</p> <p>第2日 第6回 「しあわせ」の本質を考える</p> <p>第7回 住まいのカタチとコミュニティの関係</p> <p>第8回 自分にとってのコミュニティの意味を考える</p> <p>第9回 コミュニティの暮らしへの活かし方(1)</p> <p>第10回 コミュニティの暮らしへの活かし方(2)</p> <p>第3日 第11回 コミュニティが形成されるメカニズム</p> <p>第12回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習1</p> <p>第13回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習2</p> <p>第14回 受講生による企画発表</p>						
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価						
講義中に直接使用する教科書							
上記教科書以外の参考図書	甲斐徹郎、2018、『人生を変える住まいと健康のリノベーション』新建新聞社、1,900円(税別)。甲斐徹郎、2016、『不動産の価値はコミュニティで決まる』、学芸出版社、1,900円(税別)。						
その他 (HP 等)	http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=39 http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=38						

科目コード	OG350	科目名	現在（いま）を生きるための健生学	科目群	第3群
担当者	堀 エリカ（ホリ エリカ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月22日、25日、26日（10:00～17:00）	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	医療などの進歩により長寿を享受できる現在だからこそ向き合う必要がある「最期の瞬間を迎えるまで如何に健やかに生きるか」という課題に対し、広義な意味での「健康」や「医療」、そして「死生学」の視点から学びを深め、解決への糸口を探る。				
授業の内容	<p>私たちが健やかな人生を送るために、日々の生活の中で対処することが求められるものの中から、本授業においては次の3つに焦点を当てたうえで、実学的な内容を中心に授業を展開していく。</p> <p>① 心身状態の把握と調整 ② 医療への理解と主体的な受け方 ③ 人生の最終章である「死」についての理解</p>				
授業計画	<p>第1日 第1回 イントロダクション & ヘルスリテラシー（情報真偽の見極め） 第2回 病を知る（病因、現代的な病気） 第3回 健康づくりのためのヘルスチェック（病気予防と生活習慣） 第4回 病院の選び方とかかり方（選択の視点、セカンドオピニオン） 第5回 特別授業（ゲストスピーカーの予定）</p> <p>第2日 第6回 医療コミュニケーション（医療者と患者との間に生じるズレ） 第7回 医療の意思決定（意思決定過程、インフォームド・コンセント） 第8回 終末期の医療（在宅療養、ホスピス） 第9回 生命倫理（安楽死と尊厳死） 第10回 特別授業（ゲストスピーカーの予定）</p> <p>第3日 第11回 「死」とは何か（キューブラー・ロス氏の死に逝く人との対話） 第12回 死の準備教育（遺される（た）人の心理プロセス） 第13回 死の疑似体験ワーク 第14回 まとめ</p> <p>* 医療に関連する施設への見学、時事問題の取り上げなどの可能性があるため、講義テーマ・内容が若干変更となる場合あり * 講義回の入替え、ゲストスピーカー回の日時変更の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	資料を適時配布				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG137	科目名	食と健康の科学	科目群	第3群
担当者	松山 伸一（マツヤマ シンイチ）				
開講日程・時限	春学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	食と健康にまつわる情報、商品、サービスなどが身のまわりにあふれているが、どれが自分にとって有益なのかを科学の眼で読み解き、必要なものを選択しつつ、新しい知見も吸収して今後の生活に役立てる力を養う。				
授業の内容	私たちの身の回りにあまたある食、健康、医療、美容などの情報や関連商品・サービスの中には誤解やエセ科学に基づいているものも少なくない。マスメディアや SNS などの影響で形成された「国民の常識」を見直し、「ものの道理」に立ち返る授業を展開する。日々の暮らしやこれからの人生に直結する食と健康に関する話題を取り上げ、基礎から実践までを科学の視点でわかりやすく解説する。科学的な予備知識がなくても理解できる内容である。				
授業計画	第1回 4/14 食と健康の基礎知識：常識の点検 第2回 4/21 食の安全：最も気をつけるべきは食中毒 第3回 4/28 タンパク質：体を作り、体を動かす栄養素の主役 第4回 5/12 脂質：嫌われても黙って支える縁の下の力持ち 第5回 5/19 糖質：糖質制限ブームで着せられた濡れ衣 第6回 5/26 ビタミン：見えない栄養素の逆襲 第7回 6/2 ミネラル：忘れ去られた栄養素の逆襲 第8回 6/9 非栄養成分：食物繊維とファイトケミカルの機能 第9回 6/16 ダイエット：太りすぎと痩せすぎの健康への影響 第10回 6/23 生活習慣病：予防と改善に向けて 第11回 6/30 がん：生涯罹患率 50%の病の正体 第12回 7/7 認知症：脳の機能にも栄養が必要 第13回 7/14：まとめ：体と心の健康のために大切な習慣				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし。毎回、手元資料を配布する。				
上記教科書以外の参考図書	單元ごとに参考図書を紹介する。				
その他（HP等）					

科目コード	OG105	科目名	健康長寿とアンチエイジング	科目群	第3群
担当者	杉浦 克己 (スギウラ カツミ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月6日、7日、8日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	加齢に伴って起こるフレイル（虚弱）について基本事項をおさえた上で、健康寿命の延伸に関わる因子について学ぶ。そして、健康長寿を達成しウエルネスな人生を送るための生活習慣的アプローチを理解し、これからの人生を再度デザインする。				
授業の内容	健康寿命の延伸を図る上での危険因子（メタボ、ロコモ、認知症、薬物依存、うつ、ストレス、感染症等）と保護因子とを認識する。これらの因子に関わる、運動・栄養・休養、喫煙・アルコール等の生活習慣の基礎的知識を理解した上で、これらをどのように実行していくかについて、人生の流れ（勉強、仕事、結婚、家庭、老化、死）に沿って、環境や社会とのつながりという大きな視点と、自分自身の生き方や態度という全人的尺度とによって捉え学んでいく。				
授業計画	<p>第1日 第1回 ウエルネスとは</p> <p>第2回 健康長寿とアンチエイジング</p> <p>第3回 健康長寿を阻む病気（メタボリックシンドローム）</p> <p>第4回 健康長寿を阻む病気（ロコモティブシンドローム）</p> <p>第5回 健康長寿を阻む病気（認知症）。課題（食事を調べる）</p> <p>第2日 第6回 筋肉を増やして体脂肪を落とす栄養と運動</p> <p>第7回 サプリメント・健康食品</p> <p>第8回 休養・睡眠のとり方</p> <p>第9回 依存（薬物、アルコール、タバコ）</p> <p>第10回 うつとストレス、笑い。課題（落語を聴く）</p> <p>第3日 第11回 生命倫理（映画鑑賞）</p> <p>第12回 感染症（3大感染症、インフルエンザ、COVID-19）</p> <p>第13回 環境の科学 レポート提出</p> <p>第14回 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	特になし				
上記教科書以外の参考図書	杉浦克己、2024、『一般教養としてのサプリメント学』、草思社、2,200円（税別）。 杉浦克己、2021、『栄養学がわかる』、大修館書店、2,200円（税別）。				
その他（HP等）	https://www.youtube.com/channel/UCRBkmIF2SOFH_j5ne9IYhVw				

目コード	OG312	科目名	セカンドステージとテクノロジー	科目群	第3群
担当者	村上 祐子 (ムラカミ ユウコ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・1時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	情報技術を中心として科学技術の歴史を理解する。また科学技術の将来予測について手法や過去の調査結果を学ぶ。そのうえで、今後にわたって科学技術が我々の社会や生活に及ぼす影響について考察する。				
授業の内容	科学技術がもたらした私たちの生活の変化のこれまでの歴史を振り返り、自分自身のライフスタイルの変化を思い起こす。また過去に行われた未来予測を現在の視点で評価してみる。そのうえで、人工知能をはじめとする現在の先端科学技術の社会応用の例を概観し、これらが私たちの生活をこれからどのように変えていくのか、考えていく。				
授業計画	第1回 9/30 ガイダンス 小レポート：自己紹介 第2回 10/7 身近な人工知能技術 1 第3回 10/14 身近な人工知能技術 2 第4回 10/21 身近な人工知能技術 3 第5回 10/28 身近な人工知能技術 4 第6回 11/11 過去の先端科学技術 1 第7回 11/18 過去の先端科学技術 2 第8回 12/2 過去の先端科学技術 3 第9回 12/9 過去の先端科学技術 4 第10回 12/16 未来のライフスタイル 1 第11回 12/23 未来のライフスタイル 2 第12回 1/13 未来のライフスタイル 3 第13回 1/20 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)	参考 HP を授業内で指示。授業の参加者と意見交換をすることを強く勧めるため、また、オンラインで行うため。システム上で毎回お互いに小レポートを読んでいく。				